

当院の心臓カテーテルチームにおける多職種勉強会の有用性

◎後藤 理紗¹⁾、森田 合莉¹⁾、手老 真弓¹⁾、清 亜矢¹⁾、岩崎 佐知子¹⁾
富士市立中央病院¹⁾

【背景・目的】ST 上昇型急性心筋梗塞（STEMI）における経皮的冠動脈インターベンション（PCI）では、再灌流までの時間をいかに短縮できるかが患者予後の改善に最も重要である。急性冠症候群ガイドラインでは病院到着から再灌流までの時間（Door to balloon time、以下 DTBT）が 90 分以内であることを強く求めている。そのためには、多職種で構成されるカテーテルチームの連携が不可欠である。

当院の心臓カテーテルチームは医師・看護師・臨床検査技師・診療放射線技師・臨床工学士で構成されており、日々の業務において連携不足を感じていた。さらに近年、スタッフの異動や新人技師の増加に伴い心臓カテーテル業務に携わることへの不安の声が増えた。それら問題点の改善にはチーム力向上が必要と考え、月に一度の多職種勉強会を開催するに至った。そして今回 2018 年 12 月から 2022 年 4 月までの計 31 回行った多職種勉強会が問題に対して有効であったかを評価した。

【方法】①多職種連携の問題に対しては、2015 年から 2021 年の DTBT の平均値、中央値、DTBT90 分以内の達成

率を集計し、勉強会開始前後の推移を評価した。

②スタッフの業務に対する不安の問題に対しては、アンケートにより評価した。

【結果】①DTBT は多職種勉強会開始前である 2015 年には平均値 95 分、中央値 73 分、達成率 77.8%であったが、直近の 2021 年では平均値 74 分、中央値 63 分、達成率 84.2%となった。

②アンケートの結果、不安が軽減されていた。

【結語・考察】多職種勉強会を開始したことでスタッフの意識が高まるとともに連携が強化され、結果として DTBT の短縮につながった。多職種の知識を共有することで治療全体の理解が進み、不安軽減につながったと思われる。

0545-52-1131（内線 2280）